

## 情報化ビジョンの策定

情報通信技術（ICT）は、特にこの近年において著しく進展しております。その技術の活用によって、市民サービスの向上と行政機能の飛躍的な向上が期待できます。

その思いから、治水対策や医療・福祉・健康分野、行政手続きなど、様々な分野での具体例を挙げ、技術革新で実用化されている新たな手法を提案してきました。

この度、2022年までの方針を定めた「情報化ビジョン」が策定され、「6つの視点」が示されました。

- ①新技術と業務の組み合わせによる新たな価値の創造
- ②マイナンバーカードの多目的利用
- ③情報セキュリティの強化
- ④情報システムの最適化
- ⑤将来を見据えた人材育成、組織改革
- ⑥行政サービスのデジタル化

これらの視点で情報化を推進することにより、「スマート・ねやがわ」を実現することとなります。ただ、「具体的にどのような手法を取り入れるのか」については、今後作成される情報化アクションプランに委ねられています。

日本は欧米に、行政は民間企業に、それぞれ後れを取っている分野でもあり、本市の取り組み如何によっては、国内をリードできる可能性があります。近未来の社会を想像しながら、技術導入、人材育成を行っていかねばなりません。

## 特別名誉市民の選定

平成23年以来、久しぶりに開催された「名誉市民等選定諮問委員会」。  
有識者2名と議員3名から成る委員会です。議員の3名は、議長・副議長・総務常任委員会委員長との取り決めがあります。今回の委員会では、委員長を拝命することとなりました。

名誉市民等の「等」が指すのは、「特別名誉市民」。  
特別名誉市民については、姉妹都市から本市の賓客として来訪した者で、親善に特に貢献した者に対し、称号を贈ることができる旨、条例で定めています。

11月に姉妹都市であるニューポートニューズ市から交流事業として18名が来られました。その団長が姉妹都市委員会委員長という職で取り組んでこられた功績を称え、諮問委員会では「適当である」とし、委員長として市長に答申いたしました。

ちなみに、特別名誉市民は42名になりました。  
名誉市民は、未だかつておりません。

（議場で、寝屋川市・市議会の状況を説明）  
ニューポートニューズ市でも人口減少、高齢化が課題であるとのことでした。



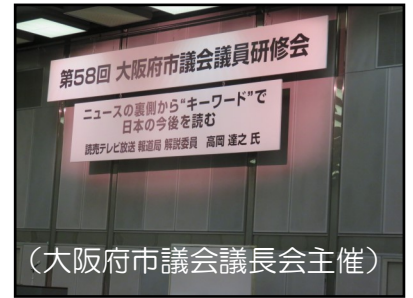
## 研修を通じた研鑽

12月議会に入るまでの間は、研修等が重なるシーズンでもあります。主催者によって視点が異なることから、自分では後回しにしがちなテーマを勉強できる機会です。

保健所所長による報告会は、9月号でも記載しましたが、DHEAT（ディーヒート）として被災地保健所の支援に行った事実を知っていたことから、議会側から依頼をいたしました。中核市に移行すれば、その業務も理解しておかなければならないと考えてのことです。緒についてばかりの制度ですが、今の所長はその先頭を走る一人です。

### 【この間に参加した研修】

- 大阪府市議会議長会主催（全議員対象）
- 近畿市議会議長会主催（議長対象）
- 河北市議会主催（議長対象）
- 報告会（水道局職員、保健所所長による西日本豪雨被災地での支援の報告）
- 全員協議会（地域公共交通網形成計画、緑の基本計画）
- 説明会（中核市関連条例について）
- 市職員対象の研修（総務省審議官を招いての市幹部研修に議会側も参加）



（大阪府市議会議長会主催）



（交野市の給食センター）

## 議長として出席

「議長」の職である故に出席させていただいている行事があります。中には、初めて、行事の内容を知ることができたものもあります。例えば、「農産物品評会」「健康まつり」「北河内7市での合同消防訓練」などです。参加者の普段の頑張りを知る、良い機会でした。

また、今年だからこそ参加できる周年行事等もあります。例えば「民生委員創設100周年」「北大阪会議所70周年」「消費者協会50周年」など。学校や自治会も同様です。諸先輩の功績を称えつつ、その取り組みを次代に引き継ぐ決意を表明する、節目の行事です。

少し変わったところでは、「花園ラグビー場改修後の内覧式」といったものもありました。この式典の様子はドローンで撮影され、新たに設置された大型ビジョンでライブ放送されていました。ICT機器の積極活用の必要性を改めて感じた瞬間でもありました。



シリーズ  
おやがわ史

## 乳牛の飼養

かつて、淀川川敷では放牧がおこなわれていた。牛乳が常用飲料として普及以後、乳牛の飼養が本市でも行われるようになっていく。

昭和12年には、明治乳業の牧場が寝屋に開設され、乳牛が200頭もいたが、戦争のため軍により倉庫に転用された。戦後再開されることはなかった。

対馬江の京阪牛乳（株）では、自家搾乳・処理・製品・販売の一貫営業を行っていた。

昭和40年の本市の飼養状況は以下の通り。

成田町（7頭）、田井町（15頭）、平池町（29頭）、太間町（96頭）、高柳（57頭）  
黒原（54頭）、対馬江（26頭）、太秦（43頭）、寝屋（18頭）

合計353頭

## 変則となる予算要望

新年度予算を編成するに当たって、2019年度には、いくつかの特徴があります。

- ①元号が変わる
- ②消費税の増税が予定されている
- ③寝屋川市が中核市に移行する
- ④4月に市長選挙が行われる

特に、市長選挙が行われる年の当初予算は「骨格予算」となるのが通常です。

※骨格予算とは・・・誰が市長でも、行政が行わなければならない事業や、経年的に行っている事業など、最低限の事業を運営するための予算

市民が選択した新市長の公約を実現するための、新たな施策・事業の予算化は、市長選後の6月議会に行われます。

しかしながら、「行政の継続性」「計画行政」の観点からすると、取り組みが途上の施策・事業については次年度も引き継がなければなりません。

例えば、今年度の災害を教訓とした危機管理体制の強化や、年度内に取り組みの方向性が示される公共施設の老朽化対策、公共交通網の拡充などがそれに当たります。

そこで、今期中に会派として行ってきた代表質問や予算要望・政策提言を振り返り、未導入の事業・サービス、更に新年度の特徴を踏まえ、77の項目を要望しました。

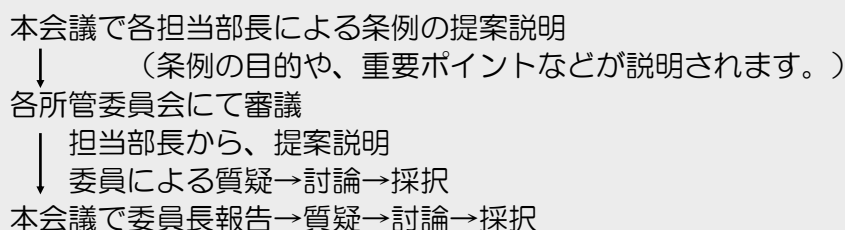
この回答として「検討」「調査・研究」とされたものは、その後の対応について、議会活動の中で追いかけていくこととなります。

## 中核市に向けた「条例説明会」

4月1日に中核市として移行することが閣議で決定しました。全国で55番目となります。

これまで大阪府が行っていた事務を寝屋川市が移譲を受ける事務条項数は、約2000になります。その事務の根拠となる条例も寝屋川市独自で制定しなければなりません。

### 条例審議の流れ



12月議会では、中核市関連の条例だけで32本、その他にも8本の条例や補正予算などの案件があります。

これまでの議会と比べボリュームが大きいことから、これまでと同じように条例の提案説明をしたのでは相当の時間が必要となることは明白です。とは言うものの、簡略し過ぎては議員の理解が進みません。そこで、法律で禁止されている事前審査に当たらない範囲で条例を確認する「説明会」を事前に実施しました。

また、中核市関連条例は本市にとっては初めての内容で、新規条例と位置付けることができます。通常、新規条例の審議は時間も多くなかかります。特に、厚生常任委員会に付託されるであろう条例本数が突出しており、委員会が1日で終わらないことを想定し、「予備日」を設ける対策をとることにいたしました。

先行して移行している市の議会を参考に、段取りを議長団で検討し、幹事長会での協議・理解を得た上で実行できました。本市議会にとって、以前も、今後も、同様のケースがないかもしれませんが、より丁寧な審議形式となったのではないかと考えております。